越州三國浦
新保村住人
異國物語

862
1
5

国立国会図書館　タイトル『異国物語』 請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(5)

越前國三國浦新保村にて竹内者ゟ同子後藤松二そう
西田長右ゟ母一般以上三般に卒八人家中松前ゟ商の為出
母いとし御上ゟ大風に多き徒徂の出ハ吹付し同出の頃
ゟ長右ゟ大船ゟ小京へ送し候ゟ朝館の頃ゟ送し候家
對ゟ長右ゟ夜内古川伊右ゟ夜ハ浪ゟ對ゟ高へ送し右の出
にてのいえ也

寛永廿三年四月朔日越前國三國浦を出し能生に屋ゟ
の頃より元十五日和尚仕事より佐渡へ送し候ゟ余日和尚
仕事より十日に佐渡を出せ候より大風に多き日に何
事せく不知事よ送し人事なく山中見えてしゝ小舟を出れ
を見ゝ事ゟ元に十日中逗留仕山にて本を伐舟のそこ
其を掛日本へ乗候し存舟を御覧に風無り成たるより
卒里中西の方へ送し候より一里半沖にかゝり下し和三
郎中ゟ小舟に出人にて案六十艘ゟ乗り候りしてもも

に洞中まで次々取返答まふしに合はせ候ひ帰りして又右
の舟三艘ゟ出り日本の老婆と談合しは皆々候もまゐりて有
は老婆を舟に乗せてしと談合して拓寄のりしと志ゝる故
尺也ゟ三人乗りし合浦を給ふ也とも給ふし定日乳老
仕と存高麗ゟ給ふて尺也ゟ夫を見て給し夫日右の舟に
乗り人参三把持ゟ料理調を見て人参に乳人帰し
其時高麗ゟ此拓寄に志ゝを設四人
此拓寄の内あれ山に沼山より住とまゐ○をいたし尺也し高麗
談合ゟ何事へ乗ても高の為ゟて高阿の老婆をたらし人
参ゟ代を不を蔵ゟ也 此にて乗て談合し彼老婆に米を乳
せてしる在不を尺也へとしに合点仕暁ゟ為ゟいたこれ
とて乗て多の噂まゐを設帰りし夜明すに彼老三人乗
又合浦を給ふ也同居中山へ出りし三艘の舟に十四人移動る
四十四人山へ乗りし高麗ゟ海上ゟ大風ゟ逆ゟ所祝神祈誓

の為刀掘指ふ海中へ入し身皆ゟ丸獨まて上りし十町斗ゟ
ゟ萱原の山ゟ出し叫ゆしの不ゟ人参ゟ立ましかと存ゟ方ゟ人
寄中へ入て萱原さゞめきは百尺ゟ候ゟ存ゟ愛に日本の老婆
を乳殺ゟ為ゟ村数し刀掘指も無ゟ家ゟ乳人ゟ戦ゟ為ゟ家
方ゟへ逃ちりゟ不を叫なるこゝなるこゝ村数し三百十二人萱
原ゟ隠れ居しとゝしへ手をくるもこゝ候動し山ゟ五百人斗
とてまゐしと存ゟ給ふ一不ゟ集りし時ゟ千人斗も居て夫日
日本の舟へ乗り舟中の老婆を数尺を皆ゟ乳し舟中ゟ
二人帰し此内一人ゟ舟頭国無ゟ為一人ゟ行内者乳菓饅
乳を○十四歳にて国無ゟ為舟へ相所をなけ込焼し
ゟ身無ゟ為ゟ海へ乳ゟ不を方ゟ分ゟ村数のしと仕を高麗
合浦をたゝへさせて者二人乗り走り回り物中は来り二人の老
せゝ石達ゟ乗山にてとゝへ共と以上十五人一不に動てこゝ後一
人にて村ゟ石達ゟ乗ゟ烟の為をとしゝ也ゟ草を持て伍をし

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用

一不ゆゑ御座の所に而ハ御座ハ理非を七ツ不ゆゑ書付ハ
人のあんまを云へたまり人一家に持ちしこと所七ツの出ハ有金
ハ枝ゑらなり人信帖見有たんさくを通り相あしきを
行人にハ通義をけつしはあんまを云ハ此ハ無しこと死罪の者を
こ所に王へ申上ゆゑ此ハ二ツ所帝 天道御座を出ゆゑ死罪
に仕ましくとの御座上りて重罪の者ハ此殺死ハ所
死罪ハ流罪さてハ刻行の枝ハ殺を定たるさし大罪
の義人を殺しまゝ無しあんまを申ハ王の出名代仕金法家ハ人
をし

一 小科の名ハ二所ハ第一度此科ハ出ゆゑ人の力ハ上ハ誤り
此て科仕ハ人のまゝ事ハ此ハ殺死ハ或ハ枝ゑ殺ハ
たゞかゝ也二度に及科仕ハ此ハ二ツ恒重ハより此法家ハ仕

一 純圖より無ハ少ハ有ハ此ハ科仕ハ二年の月ハ出死ら
所ハ二ツ所の仕法不可有所の儀ハ二ツ所ハ罪科仕ハ

法家のごとく被仕候

一 上ハ刀ハ拵ふし一尺五六寸或ハ刀ハ拵ふし一尺五寸或ハ刀ハ拵ふし
地をかゞ鞘のやうに仕拵よさけし拵ハ大身鎌さやとも深
ゑ拵ハ塗ゑまゝ子ハ仕さやの取ゑ仕ハ仕小屋をもり
し諸も打し此ハ拵さしゑ行も来ゑ代し

一 大名ハ此ハ所ハ京此旗譯為拵ハ法長刀ハ為拵ふし

一 武具ハ弓ハ一ツ此ハ弓の長ハ四尺ハ弓ハ弓ハ弓ハ庫の
弓とて日本へ渡りしこと弓の形ハ法ハ毎日弓の稽古馬
乗ゑ也自在に射し的をも射し十間二十間ハ遠く座
をもて矢ハ稀ハ渡ゑ上ハ射し付馬をかけ也前後
左右自在に射しこと矢を馬上ハ射し又ハ仕ハ射ハ
両面渡ゑ

一 武具ハ目ハ手のさゝ帷子此ハ出ゑ法をさゝ手に拵すき刀もな
く遠ハ出て来し

一 馬自由自在に乗りまはし申して候。其外日本にては
者共は馬小乗りすたれる事にて、つよき馬を乗りならして乗んと申さず
申し候。それに付、鞍をも見申さず一文字にかけ落鞍の内にいたる事
まてには一旦落ちつけて、手綱をもはなし、とかく止りて候。物切
りすることなし。馬も行きかけ見すてても、奥へ行きても乗り申し候
申しは皆様よりは中々少しも馬に乗らず、従ひ仕り候山坂を行きける
自由自在にかけ廻り、船の乗やうと道々其外にも草も水も飼
馬は皆、駿馬を飼ひ置き、五穀のうちを飼し、大豆
を飼ふ。糠も米と同じく、麦に切りて大豆に交ぜ飼し、其外
かけ、糠も食はず、馬のこれをぬかとも鼻をさし入れし、其の穀
は一切食はず候。それには芝の如く仕り候

一 軍法のこと、其代より此国にては中々武士の物は仕らず候人
これ下の小路に寄る法の事を書き付け、渡世に過ぎ候、その故は
家内人々にもよく此の者に売りて、勝手がけ扶持ないしめの法にて

能練兵軍勢に於て申す事の法、仕様をも申すに天下せし字
法をも定めよく、それを書付、せいを申し候。戦場にて討死仕りたるを
これ男女ともに勘定候へて、其後首を負て者共は類を申し合
天下の手柄を仕る切の人には討死仕りても忠義をも立
忠義の忠切の者には、弓矢の法をも仕、近所の者にも勇ましく
科なき仕合せ者を闕所にも申さず、仕損じ候者は法度
堅く仕り候へて申すことは、ことさら仕る事も候
無きよう申付て、仕損じて、大略じて今戦の後
これより後の従者の人々もやゝ申して、何時番衆申し渡し
仕るべく候ひて、付け申す事も無き候へども、二度と申して家に
又は上意にも同前にも仕らず、事も無く候
主人として下人との作法、親子のごとくに仕りて、古法を守り
申すことのごとくに仕り、主人をたとへば親のごとくにいたし
上下ともにこれを聞し、大名の家には十人ほど人

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用

祈れて橋をことし殘三方の御ゆへに石橋をいつて掛りし六
里四方の中に屋敷作り町屋造りもたくゝ御ゆへいふと
丈夫なるゆへ、柏木にふれ皆切石を用ひし也日本の屋
屋のごとく住所も御ゆへ但五六月梁行も見えし月雨
うれ大に住長屋の外は皆ふつくい語の石垣にて町屋も居
瓦葺にて御高貴の所は日本の僧居の出さく家を
川の前長し又其住ニ出さく所も御ゆへ富貴法樣に見えし
事猩猩の都と各別に遊び祝元昌の比にて御ゆへ
一 小京は御高貴に五六日語もまゝしゆへ生育一切無し
鯉新さ外川莫の都に御ゆへ
一 小京にて人の所は猩猩人とは遠近人も御ゆへ御ゆへ無邪
を世さくして見えし名を以て猩猩の王小京に御ゆへ
ゆへ猩猩人分の長し此御法者萬事猩猩の出さく居
付る人のみも能有まし猩猩人にし

一 大明の小京南京せしに此年文祿の諸民猩猩のことく頭を刺
かゝ毛を御しゆへ
一 大明は夏沢山にて白夏は貴賓は御ゆへ居し其日諸
三五一年にて住迎ゆへ乱世にて此ゆへ
一 文字は猩猩大明同事に通しゆへ
一 小京は南京に居急ゆへ二十日にて兵を住ゆへし十月に大
河にて御ゆへ南京も猩猩一切れし討手の軍勢小
京に所得但一所南京に強ゆへしこと語南京人を小京へ
礼に来ると日本の共にて怪うんし南京人を皆を頭を刺
猩猩人のことくに住ゆへ
一 正月の儀式大かた日本に替りなし門松も立し三十日
能祝を外に祝無しと生に礼に来る三十日の月王城に此礼
の所討し外影しくゆへ御家大名は日本にて猩猩の様
物を上に見えしこと外に者にの御家の新安物と見えし

一　七月十四日十五日十六日三日の間仏をまつる日なりこれも諸寺にて
寺々に本仏をまつる事一寺に二万も三万もこれあり大なるに
作り仏を作り並べ経を読みて仏前に香華
積の菓物七月の分仏数多を供し水向ける
施餓鬼の様子日本にかわる事なし
一　八月十五日は祝し何の祝と云ふ事も星を祭ると言
云ふ事にて九月三月は祝せし五月は祝はぬ礼日
ことに十二日を祝ふ
一　寒に入れば宮をし正月中大明より勅使をうけて宮を開きし
一　韃靼にも大明にも寺多く仏あり仏前に経を積
置きて経箱多く法花金仏を信じ
一　韃靼にも寺宝幢庵を建て何の信心も合点
ふるかる搭寺と云ふ所
一　大名長柄の輿に乗るなし

一　北京と胡鮮の国境に石築をなし幅二三町
程の川あり此の川を越して朝鮮へ入る事なし
川をへだて国境大河に
砂の事を通りし朝鮮の出入山へ広く
一　韃靼にも十の数より
一(アモ)　二(チヨア)　三(ヱラ)　四(ドイ)　五(スヂヤ)　六(ニウユ)　七(ナダ)　八(チヤコ)　九(ウヨコ)　十(チヨユ)
一　北京にも十の数の事
一(イツコ)　二(ウユコ)　三(オンコ)　四(シイコ)　五(ウツコ)　六(リツコ)　七(チイコ)　八(ハツコ)　九(キウコ)　十(シウコ)
又ちいさきは
一(イツ)　二(チイ)　三(サン)　四(シイ)　五(コ)　六(リク)　七(シツ)　八(ハツ)　九(キウ)　十(シウ)
一　韃靼にも合点ゆかぬとし合点と云ふ事を北京にも合点を
ちんなとし合点と云ふ詞をちいとしると合点とくへとやらぬ
をちいさんなとし
一　汁など韃靼にもたべてとし北京にはたんとし
一　葉の事韃靼にはやまてとし

国立国会図書館　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1
ガラス使用

なむしわみどぶとゆは
一 家に猪狙ゐるゆゑとゆは小家ゐるてんまとゆは
一 川を猪狙まて屋ちとゆは
一 舟に高雲にちらあんとし
一 猪に猪狙まくうていとゆは
一 相撲をおしまし 猪狙ゐるしやさなけとし猪狙大將ゐる
まきまうをすきてしおし小家ゐるに相撲のゐるゆのかし
一 拓ゆとゆゆゆゆ沈そこ年は日本ゐるハ今あるゆ沈そ
示しかし詞を猪狙ゐるいてん祢ぼとゆは小家ゐすくちゆとは
一 城に猪狙ゐるほつとし小家ゐてしやうとし
一 老人人あくゆかしまゆ猪狙ゐるにゐるこうとゆは小家ゐるもろ
ことし
一 今日明日明後日とゆ猪狙ゐるくるをいのき明日をちまは
明後日をちやうまとし小家ゐるに今日をこさうるか明日をめの

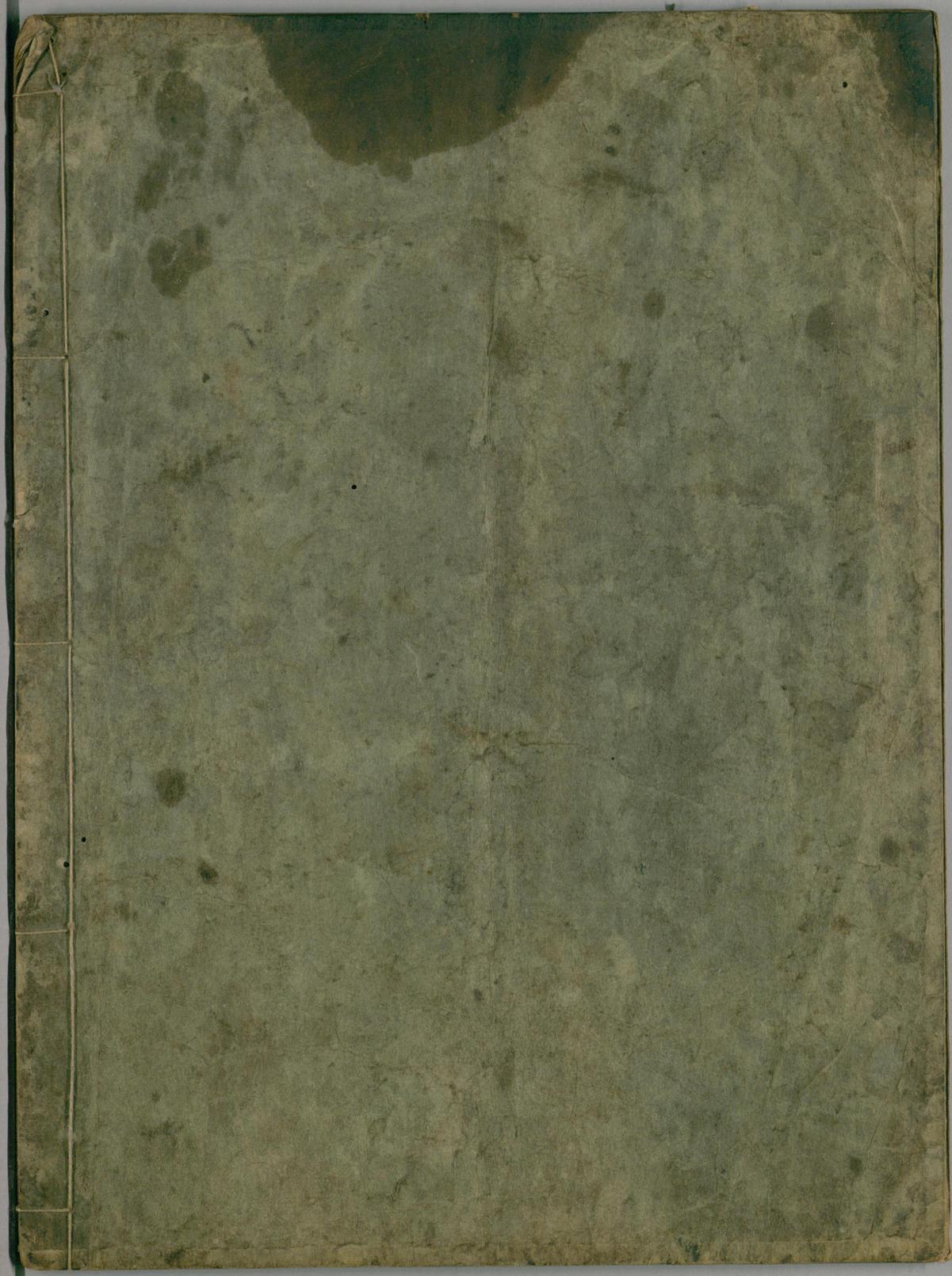
るかとゆは明後日をうるかとし
一 日をいしやんとし月をひやあとゆは日月の出をしとき
とめとし入けをいどりかめとし
一 朝ゐる小家ゐるそうし時是にしやんか晩にしやとし
猪狙の詞に失念いるしは
一 海をに猪狙ゐるとりもつとゆはむりかハ名とすると小家
まてにだあをいとゆは
一 猪狙ゐる眼にやさ鼻にをほろ口にはいんか耳にしやうハから
猪にころ足にあうことし小家ゐるの詞に失念いるしは
一 猪狙の詞に数多くしし小家の詞にかゝえしし山子四に方こ
にるに宗を路差しかし時間をし人に宗猪狙人まて出
道をしかし聞習し
一 面倒とし物を猪狙大將面倒せしにしてそうとゆは日本
人十五人ゐ月にこれ年十四五にあ若一人ゐし山子ゐる

国立国会図書館　タイトル『異国物語』 請求記号 862-1
ガラス使用

862
1

国立国会図書館　タイトル『異国物語』 請求記号 862-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『異国物語』　請求記号 862-1

ガラス使用